

岡 田 宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 17 号

平成5年11月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806

電話(093)621-1898

F A X (093) 621 - 5330

奉 祝

第61回神宮式年遷宮



皇太神宮新正殿

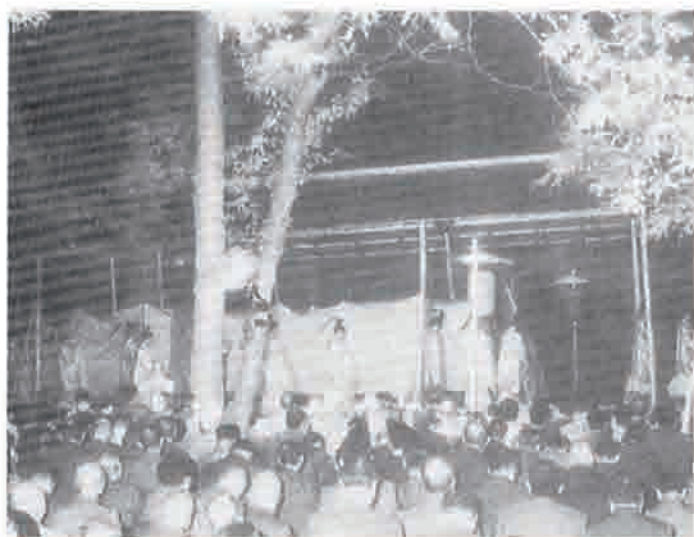
(平成五年八月撮影)

第61回神宮式年遷宮

遷御の儀滞りなく

浄闇の中、新宮にお遷り

第六十一回式年遷宮遷御の儀が、皇大神宮で十月二日、豊受大神宮で同月五日の夜、勅使・小出英忠掌典長および池田厚子祭主以下百数十人の祭員の奉仕により、供奉、参列諸員二百余人も従えて、清澄の浄闇のなか、厳かにとりおこなわれ、数千人の特別参拝者が拝した。翌三日と六日にはそれぞれ奉幣の儀も滞りなく斎行され、昭和六十年の山口祭から始まった第六十一回式年遷宮の内外両正宮の重儀は全て終り、木の香もかぐわしい新御正殿に新たな生命がよみがえった。両宮の遷御に際し、天皇陛下には、午後八時、剣璽と共に御あらせられ、皇居・神嘉殿南庭にまつらえられた御座につかれて遙拝あそばされた。



内宮遷御の儀を終えて

神宮大宮司 久 邇 邦 昭



第六十一回の内宮遷御の儀を滞りなくお仕え申しあげることができ、感無量というより他に言葉がありません。

昭和天皇の仰せ出しによって、昭和五十九年春に始まりました遷宮の諸準備には、足かけ十年を要しましたが、国民の皆様のお力添えのお蔭で、無事今日の感激の口を迎え得ましたこと、深く感謝申し上げる次第です。

今は装束を脱いだばかりで、十分な感想を申し述べることができませんが、遠く飛鳥の御代以来の大切な、何ものにも替えがたい日本の心を、次の時代へ継承できたように思われてなりません。

引きつづいて、外宮の遷宮の儀お仕え申し上げねばなりませんし、別宮の遷宮は来年の十二月まで次々とおこなわれますので、心をひきしめ、全行事、全神事に微力を尽くして参りたいと思っております。

神社なぜ問答

(その16)



問 なぜ注連縄を張るのですか。また紙垂はいくつつけるのですか。

答 お正月が近づくと神社でも各家庭でも注連縄を新しくします。神社の注連縄も全国的に見てずいぶんたくさん種類があります。出雲大社の大きくて太い注連縄は印象深いのでよく知られています。

お正月に各家庭で飾る注連飾りも大根じめ、牛蒡じめ、輪じめ、鼓の胴じめ等その形によってバラエティーがあります。また、伊勢海老や燈、昆布や串柿などがつけてあるものもあります。そもそも注連縄はどんな意味があったのでしょうか。神話の中では、シメナハについて次のように語っています。天岩戸に天照大神が隠れてしまうと世の中が暗く秩序が混乱してしまつたので、神々が鳩首会議をして、天岩戸

から出ていただくことにしました。お繻をたてて、これに鏡や曲玉、紙垂をつけて一心に祈り、天細売命が神楽を舞いました。あまりに楽しそうにしていたので、天照大神は天岩戸をすこし開けてのぞきました。すると鏡に御自分の顔が写り光つたので驚きました。その際に手力男神が岩戸を開けて、天照大神の手を引いて出ていただきました。すると混乱していた世の中に光が満ちあふれ秩序が回復したのです。その時、天照大神が再び天岩戸に戻られないようにシメナワを張りました。たった一本の縄にそれだけの力を感じたのでしよう。境界を示すと共に神霊や邪霊の出入も制限した訳です。シメ縄は一般の縄と区別する為左にしないのが伝統です。神社にこの注連縄を張るのは、神霊を祀る処を標示すると同時に邪霊の侵入を防ぐのです。お正月に各家で「歳神さま」をまつる期間だからなのです。このシメ縄には紙垂や様々なものが付けられます。神社のシメ縄には、藁の端を七・五・三に出したものの、紙垂を八垂、四垂、二垂とつけます。紙垂ということから四垂の場合が多いですが、特別なきまりはありません。家庭のシメ飾りに色々なものを付けるのは、歳神への供物の意があります

岡田宮と厄除

くよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、人生の折目、だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。皆様方おそろいで御参拝下さいませ。様御案内申し上げます。

平成六年の厄年

| 厄年(男) | |
|-------|------------|
| 二十四才 | 前厄 昭和四十六年生 |
| 二十五才 | 大厄 四十五年生 |
| 二十六才 | 後厄 四十四年生 |
| 四十一才 | 前厄 二十九年生 |
| 四十二才 | 大厄 二十八年生 |
| 四十三才 | 後厄 二十七年生 |
| 六十才 | 前厄 十年生 |
| 六十一才 | 大厄 九年生 |
| 六十二才 | 後厄 八年生 |

| 厄年(女) | |
|-------|------------|
| 十八才 | 前厄 昭和五十二年生 |
| 十九才 | 大厄 五十一年生 |
| 二十才 | 後厄 五十年生 |
| 三十二才 | 前厄 三十八年生 |
| 三十三才 | 大厄 三十七年生 |
| 三十四才 | 後厄 三十六年生 |
| 三十六才 | 前厄 三十四年生 |
| 三十七才 | 大厄 三十三年生 |
| 三十八才 | 後厄 三十二年生 |

※年齢はかぞえ年です。

●厄除大祭 二月節分日

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。



形代(表) かたしろ

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願いする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

●開運福引き 一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。一等は自転車、羽毛ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭 一月十五日

古くなった、縄、門松等を焼納する神事。地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。



(1月15日 どんど焼まつり)

郷土地名考

16

鳴水(なるみず)

筑前統風日記拾遺 福岡県地理全誌に「鳴水村も始めは熊手村の枝郷だったが、慶長ころ(一五九六〜一六一四)別村となった。住居地は多く入江で、遙かに南の山際まで潮水が満ちてきた。岸の浦、小舟、牡蠣打、牡蠣原、乱焼などという地名が今も残っている」と記している。

洞海湾の湾人がこまで迎えていたのである。満潮のとき河水と衝突して起る海嘯音を鳴水(なるみ)というが、鳴海(なるみ)と誤訳してそなたに間違いはないだろう。

江戸中期から埋立てが進み、岸の浦を海原名を残して内陸部に変わっていった。

上津役(こうじやく)

難読地名、コージヤクと読む。郡誌に「延喜式にいわゆる夜久の駅跡なり、夜久は役なるを後世誤りてかうじやくといへるなり」と述べている。何たかよく分からないが、このヤクに津をくっつけて上津役(カミツヤク)が、コージヤクに転化したという説になっている。では津は何たかということになるが、これまた頭領を得ない。



地名の由来 鳴水 古駅水

私はこの名は元来、中世荘園領主や地頭の自作地だったヨージヤク(用作用尺、用尺)に発すると思う。コは上、古、上野のコである。併せてコヨージヤク、つまりコージヤクである。地名の所見が麻生家に下した北条時頼の判物であるからつじまは合うのである。

最初に上津役があったのではなく、コージヤク(コツヤク)として出てきたのである。地名は

つても最初に言葉があり、後から文字がついた。ちなみに町名になった用尺は松にある。

引野(ひきの)

ときは六六〇年にさかのぼる。唐・新羅連合軍に敗れた百濟は日本に援軍を求めた。中大兄皇子は弟男女帝を奉じ、兵五千を率いて博多に向かった。この通過地点が引野。豊路のため道に布を引いて女帝を迎えたから引布(ひきめの)。それが引野に転化したという説。

北九州道踏跡インターを山たどるなるが、小字(引布)引。

この後日本は六六三年、軍船百七十、兵千七百を南朝鮮西海岸の錦江河口、白村江に送ったが大敗を喫して退却した。

編集後記

●本年もあと一ヶ月と少して終わるとしています。

今年の六月には皇太子様のご結婚、十月には二十一年に一度の伊勢神宮の第61回式年遷宮が行なわれ、皇室にとっても国民にとっても大変お日川慶年でありました。

平成六年も皆様方にとってよい一年となりますように毎日お神様にお祈りいたします。

●好評の「神社なせなせ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

●平成五年年度の岡田神社崇敬会の申し込みを受けつけています。

●ご入会いただく方々の一年間の家内安全、繁栄等を毎朝ご祈願いたします。多くの方々のご入会をお待ちしております。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。

●一日、十五日には神社にお参りしましょう。